

栄光

説教

『イエス・キリスト——命に通じる門』

ルカによる福音書7章11〜17節

日本聖書神学校校長 神保 望



ち寄せられた時、

主イエス・キリストは、ナイロンという町に立って、憐れに思われた」と記されている通り、悲しみに暮れる母親に目を止められた主イエスは、その境遇を深く憐れまされると「もう泣かなくともよい」と深い慰めに満ちた御言葉をもって、死の悲しみと絶望感に満ちた送葬の行列の足を一旦止められました。そして命から死へと向かう人々の悲しみに満ちた重い足取りは、町の内側と外の世界とを分かちつ門の前に立たれた主イエス・キリストの御言葉によって、死から命へと真逆の

説教・「イエス・キリスト——命に通じる門」	神保望教師……1
特集・教会バザー……	2
東中通だより……	5
振起日礼拝に出席して……	6
伝道師の書き込み……	7
牧師の書斎から……	7
長老のファイル……	8

方向に変えられたのです。更に主イエスは、棺に手を触れられると遺体に向かって、「若者よ、あなたに言う。起きなさい」とお命じになりました。すると、死んでいた息子は起き上がりました。命を失っていた息子は、新たに命を与えられて再び生きる希望が回復されたのです。この救いの出来事を目撃した人々は、恐れながらも「神はその民を心にかけてくださった」と感謝すると、御子を通して憐れみをおかけくださった父なる神の御名を賛美し礼拝しました。このように命を与え、育み、回復し、最後には取られる創造主なる神によって遣わされた御子は、ナインの町の入り口にある門において、その救いの御業を成就されました。町に入られる際に、主イエスは

お一人ではありませんでした。福音宣教の旅の道中、弟子たちや群衆を伴っておられたからです。これは、町の門で出会った主イエスの御言葉によって失われた命が回復されたのは、ここに死人として登場する息子だけではなかったという事です。死人の甦りの出来事へののみ目を奪われることで見落とすのは、棺を取り囲んでいた無名の人々にとつても命の回復としての意味を持つ、神からの恵みの出来事であったという事実です。つまり主イエス・キリストと出会い、その命の御言葉によって救われたのは、母親と息子の劇的な変わり様を目撃した人々も同様であったということですから、そこで町の人々は、大預言者にしか成し得ない救いの御業であるとして、御子をお遣わしくくださった父なる神を畏れつつ賛美礼拝しているのです。

主イエス・キリストは、言われました。「滅びに通じる門は広く、その道も広々として、そこから入る者が多い。しかし、命に通じる門はなんと狭く、その道も細いことか。それを見出す者は少ない」(マタイ7:13、14)。これは、人間の罪の姿を的確に表現している御言葉です。そして、罪に留まる者がいとも簡単に滅びへと至る世の厳しい現実をも表現しています。そこで主イエスは「命に通じる門は狭い。しかし、あなたは狭い門から入りなさい」とお命じになられると、世の罪をその身に負って十字架にかけられ壮絶な死を遂げられました。そしてその後、陰府にまで降られて全ての罪人のもとへと赴いてくださいました。更にキリストは、復活されたことにより罪の故に滅び行く以外になかった全ての者の罪を贖い、復活の命に生きる希望へと招き入れられました。そこで、主イエスがお示しくださった命に通じる門とは一体何であるのかが明らかにされます。私たちにとつて主イエス・キリストこそ命に通じる門であり、そこを起点として神の御国の完成に向かい拓かれた道こそ歩むべき信仰の正道です。「もう泣かなくともよい。あなたも立ち上がることが出来る」。命の門であるキリストは、深い愛と憐れみの御言葉をもって一人一人を励ましてくださいます。(振起日礼拝)

BAZAAR

毎年10月、私たちの教会では対外援助のために
バザーを行ってきました。

コロナ禍のため、残念ながら昨年に引き続き、
今年も中止となりました。

せめて紙面でバザーへの思いを語りましょう。

教会バザー



コロナ禍の教会バザー

志磨 恭子

2019年までは、毎年10月の
第3日曜日に教会バザーを開催し
て、教会員と近隣の皆さまとの交
流の場を設け、またその収益を外
部団体の援助に用いてきました。

しかしコロナ禍のため、開催す
ることが難しくなり、昨年は教会
内だけで礼拝後にミニバザーとし
て主に製作品などを販売しまし
た。今年度も引き続き同じ形でミ
ニバザーを行うこととなり、7月
に1回目を開催しました。

この後、10月31日と11月7日に
2回目、3回目を実施する予定で
す。11月7日は召天者記念礼拝で
すので、午前の礼拝と午後の礼拝
の間で行います。

昨年同様、今年のミニバザーの
売上も対外援助に用いられます。
バザー献金も受け付けていますの
で、よろしくお願いたします。

ミニバザーは製作品を中心に、
衣料などの献品も扱いますが、今

年もバザー委員会はありません
で、ご協力くださる方は志磨まで
お申し出ください。当日お手伝い
くださる方も声をおかけください。
私がバザーに係ったのはCS
の中学校の時から初めてで、地下へ
の外階段を降りたところで、分級
の時間にみんなで作ったキャンデ
イレイを販売しました。セロファ
ンに飴を並べてリボンで結んで作
ったレイを売るだけでしたが、と
ても楽しかったです。あの頃は土
曜日のバザーでしたので、午前中
から夕方まで売っていました。
バザーにはたくさんさんの思い出も
あり、早くまた教会バザーとして
外部の皆様と楽しい時を過ごせる
といいのですが。来年はできると
いいですね。



バザーの様子 (2016年)

バザーとルデヤ会

鈴木こづえ

ルデヤ会（婦人の会）は委員2名がバザー委員会に属し、会としてバザーに協力してきました。教会の各団体がバザー委員会に加わることで、教員全体がバザーの働き手になれるからです。

バザーでルデヤ会は製作品、献品、食堂に関わっています。製作品は夏ごろから数回集まって、販売する品を作りました。献品は9月中旬ごろから集めました。10月のルデヤ会例会は、バザーの前の週の木曜日、午前中に礼拝、午後には製作品や献品の値札を付けて展示をしました。食堂担当は食材の買い出しを分担し、金、土曜日にドライカレーの仕込みを行いました。ずっと以前のメニューはもつと種類が豊富で、ちらし寿司、おでんなどがあつたと聞いています。O157の流行により、衛生の管理がし易く、万人に好かれるドライカレーのみとなりました。

献品はバザー当日売れ残っても、後日バザーを行う他団体が引き取ってくださり無駄になることはありませんでしたが、今は引き取り先は見つかりません。

新型コロナウイルスは空気感染によって広がるため、人が密集しないように、人が集まる場所は換気が良くなければなりません。そう考えるとバザーは感染が起きやすい環境です。昨年、今年と中止となりました。しかし、バザーは中止となりましたが対外献金を捧げたいとの思いがあります。そこで献品、製作者が販売から片付けまで責任を持って販売するミニバザーを3回行うことになりました。人が密集しないように十分注意して行います。

バザーは多くの教員がいろいろな形で関わっていました。奉仕を通して親しくなるきっかけとなりました。地域の人にも教会に足を運んでもらう機会となっていました。以前のように、人々の交わりがあったバザーをまた行うことができそうですようにと願っています。

教会バザー雑感

佐々木慶太郎

日記を付け出して34年目になる。それを見て受洗前からバザーに係わっていたことに気付く。細かく見ればバザーへの対応は毎年異なるが、大筋は変わらない。

バザー前日の土曜日はドライカレー仕込みの日だ。毎回男代表の如く松田さんが現れる。作業は涙の玉ねぎ微塵切りから始まる。私の不器用さを見かねた小嶋さんがいろいろ助けてくれる。玉ねぎ由来でない感謝の涙もあるのだ。1階の大鍋二つに玉ねぎ、ピーマン、セロリ、挽肉、ワイン、ブイヨン、干しぶどう、チャツネ、缶入りトマト、カレー粉、月桂樹の葉、バター等を順次加え、加熱・攪拌する。松田さんと私はそれぞれのかき混ぜ大将になるが、時々他の人たちと交代する。こんな作業を通じて、それほど親しくなかった人たちと仲良くなる。作業を通じた連帯感醸成もバザーの利点だ。

バザー当日の午前、私は地階の雑貨、それも電気製品主体の売り場を担当。そこにバザーずれオジサンが登場する。「1年ぶりですね」と声をかける。電気製品の1つに目を付けたが、関心があるようないような顔をする。値引き時間帯を待って買う魂胆だ。「この値段で他の人が買うかも」と言い、顔をじつと見ていたら買ってくれた面白い経験がある。

午後は喫茶部門に顔を出し、ケーキを売ったり、飲み物を運んだりすることもありますが、それ程忙しくはない。折をみてドライカレーの昼食を頂き、他の人たちと歓談する。その中に啓子と親しい近所の主婦が混じることもある。伝道活動の一つになるかもしれない。10月の第3主日の午後には新年礼拝での奉唱の練習といった西南支区音楽部の行事がよくある。そういう場合には2時頃教会を出て会場に向かう。今やバザーも音楽部もコロナで休眠状態だ。収束後の復活を神に祈るが、バザーを生活気つける飲食に係わる部分のコロナ後のあり方が気になる。単純に元に戻せば、とは言えないと思う。

バザーと教会学校

石室裕一

バザーにおける教会学校の在り方は、CS教師が食べ物店やゲームコーナーなどを出店し、子どもたちにはご家族連れで遊びに来てもらう、というのが基本スタイルです。中高生になると、自然と焼きそば作り、フランクフルト焼き、クレープ作りなどの調理のヘルプを担ってくれるようになります。小学生も自然と売り子として会場を回ってくれます。そして気がつけばCS全体の催しのようになっています。

ゲームコーナーはもともと、親御さんが買い物をしている間の託児所も兼ねています。物が溢れるこの時代、素敵な景品を用意するのは容易ではありませんが、教員の皆さまの献品で何とか続けております。

さて、2年にわたりバザーが中止となりました。今後、飲食物を調理し、販売することができると

の中が戻ってくるのか誰にもわかりません。バザーが復活するならば、CSの出店も抜本的に方向転換の舵を切るべきなのでしょう。か。

例えば私は工作が得意なので、子ども向けワークショップを開催する(革細工、UVレジン等)のも良いかもしれません。

絵が得意な諸橋兄による、絵の教室開催も良いかもしれません。今時、ゲーム機を使ったゲーム大会もありかもしれません。色々なことを頭に思い浮かべ、先のことにわくわくするのも悪くありません。

教会バザーと東京望みの門

田中延子

10月の教会バザーは毎年私にとっては楽しい行事の一つです。義母が同じ「サン・ラポール調布」のホームに住んでいる田邊裕子さんを通して色々とお話を聞き、私にも何かお手伝いが出来たらと思いい、永福町の東京望みの門の仕事に参加するようになりました。

田邊さんを先頭に、後援会会長である粕江教会の秋元靖子さんや各教会から手芸の達人が月1回ですが十数人集まります。手分けして製作品のアイディアを出し合いい、布巾刺繍、エプロン、編み物、クリスマス用カード、グッズ等を1年がかりで作成するのですが、私が作ると売れなくなってしまうので、専ら裏方に回っています。

近年は大友圭子さんも針と糸と鋏を持って加わり、戦力となってくれていたのですが、昨年の3月からは仕事会の活動も中止となりました。田邊さんも以前は車を運

転して、永福町までお見えでしたが、ご無理になったので、ご自宅を手仕事は続けておられます。

2年前まではバザー当日、東京望みの門のブースへ目黒眞理寮長に来ていただきました。そして恒例の手作りカレーを食べて、会員との交わりを楽しんでいたものです。昨年は各教会でも礼拝すら守ることが出来ず、ましてやバザーなど人が集中するお祭りは危険すぎると中止となりました。今年はと言うと、コロナが収まるどころか第6波感染も在り得る状態で、残念ながら中止です。それでも7月25日の礼拝後のミニバザーで東京望みの門の準備していたクリスマスカードやカラフルな布製キャンドイル入りを販売することが出来ました。コロナ感染がインフルエーションと同様になるのは、あと2年先になるようです。

望みの門やバザーと言うと、姪や友人は毎回何かしら探して、喜んで提供してくれます。今後お金額如何に係らず、私たちの気持ちを待っておられる対外援助先の方々がいる限り、継続していくことが大事かと思えます。

東中通だより

東中通教会に赴任して

東中通教会 牧師 片岡宝子

伝道師 片岡賢蔵

まさか新潟に赴任するとは思いませんでした。宝子は11年前に、伝道師としてお世話になりました。経堂北教会から、鎌倉泉水教会に異動しました。それで「次の任地は、西の方に移動するかな?」と

勝手に思っていたのです。賢蔵は3月下旬、東京神学大学院を卒業し、夫婦で同労者となりました。鎌倉から新潟へ。夜間に車で約400kmの移動です。ふと車の外を眺めると、山々の上に白い雪を確認することができました。夫婦で牧会できる地域は限られていると思っていました。それが、日本海側の新潟とは。私たちは『聞き書 新潟の食事』という古い本を買って期待を膨らませ、見知らぬ地に、いざ入ったのです。最初に私たちの腹を満たしたのは、生姜の効いた素朴な醤油ラーメンでした。

赴任した東中通教会は、長老派

の流れを汲む、創立146年の伝統ある教会です。新潟は明治元年に開港。横浜などより遅れて開国後の宣教が開始された地です。医師であり宣教師のパーム、押川方義、吉田亀太郎、大和田清晴が創成期を支えた人物として覚えられています。パーム宣教の開始時に助言・支援したのは、新潟に高校教師として赴任したことがあったブラウンといわれています。

今、新潟の教会も感染症対策に神経を尖らせています。主の日、朝8時からの早朝礼拝、朝9時からの教会学校の後、主日礼拝がさげられます。現任陪餐会員181名になる教会員を2つのグループに分け、隔週で礼拝出席してもらう分散礼拝が昨年から続けられています。マスクをしたままです。素顔を見たことのない方もいらつしやいます。色々な集会所が思うように開けていません。それでも、このコロナ禍においても、毎週欠かさずに礼拝をささげることができています。夫婦で2週おきに説教の奉仕をします。み言葉を宣べ伝える務めが与えられ、慰めとなっています。水曜の

祈禱会も毎週続けていて、ウエストミンスター大教理問答と、教団信仰告白の学びをそれぞれが指導しています。

教会の1階には、創立80周年になる幼稚園があります。2階が礼拝堂です。着任早々、4月から学校法人化したことで、手続きに追われてバタバタの日々でした。それでも、毎朝、幼稚園に降りていくと、「ほうこせんせー」「けんぞーせんせー」と子どもたちが、走り寄ってきます。思わず笑顔になる瞬間です。宝子牧師は園長代理・宗教主任、賢蔵伝道師は宗教副主任の働きを与えられています。毎週火曜と金曜に交代で、子どもたちと輪になって、礼拝をささげています。隠退された前任の福井博文先生が、引き続き園長をしてくださっています。普段は神戸にいらつしやるので、やり取りはリモートです。

東中通教会には、幼稚園の他に学校法人敬和学園、社会福祉法人シャローームが関係団体としてあるため、宝子牧師は、理事・評議員・運営委員などの役を与えられ、文字通りの多忙な毎日です。賢蔵

伝道師は、オンライン会議の設定などで賜物を発揮しています。

6月には、人数制限をして就任式が無事に行われました。牧師、伝道師、教会員がそれぞれ神と教会の前に誓約を致しました。式に際して、経堂北教会から祝辞をいただき、ありがとうございます。

新潟に来て早7ヶ月、夫婦2人で共に行動することが劇的に増えたためか、牧師室では二人、時々些細なことでも言い争いもしながら、仲良く共同で、牧会をしています。新潟の地は、縁もゆかりもない地ですが、それゆえに主イエスに従って、教会に仕えることに集中して歩んでいきたいと思っています。



牧師室にて

振起日礼拝に出席して

命の回復

諸橋鷹広

やもめの子がイエスの言葉によって生き返った。その奇跡に人々は喜び、心から主を賛美した。この単純なわかりやすいエピソードであっても、説教を通して御言葉を聞くととき、私たちは何度も勇気づけられます。

神保先生の説教の冒頭で「無条件の愛」という言葉が出てきました。やもめの子の葬儀は、なにもイエスが村に入ってくるタイミンで行われたわけではなく、まったくの偶然でイエスの前に訪れ、そこで奇跡の御業が行われた。イエスは失意の中にある全ての者に希望をお与えになる。そう読み解くとき、昨今の陰りの中でどこか気分が沈みこみ、嫌なニュースだけ目につきがちな日々で、きつと今もどこかで主に祈り、主に依り頼んで、そして救われている人々がいる。しかも無条件で。そのように思われるから勇気づけられるのです。単に、やもめの子が生き返ったと読み解くのではなく、

イエスの御業によって全ての者が喜びに変えられた。改めて聖書は何度も繰り返し読み、よく理解しなければならぬと感じさせられました。

コロナ禍で制約の多い現場があり、教会も例外ではありません。讃美歌を歌わない決定をした教会、聖餐を控える教会、様々な方法でこの難局を乗り越えようとしています。眼前の困難を「仕方がない」と言えばそれまでですが、仕方がない、なるようになる、今は待つことしかできない、落胆することに信仰の危機があると思うのです。

神保先生は説教の中で「命の回復」とおっしゃっていました。コロナ禍で滅びにつながる門が目前にある。しかし、毎週の礼拝で何度も主の門が開かれている。礼拝生活を送ることが、死への門に向かいそうになる私たちの命の回復になる。兄弟姉妹と共に御言葉を聞き、日々のことは何もかも忘れて、思い悩みを捨てて主を賛美する。ふと目をやると窓辺に日が差し込んでいます。ああ、まさに今わたしの命は回復しているのだ。

振起日礼拝を振り返って

牧内 歩

8月15日タリバンがアフガニスタン全土を支配したと宣言し、8月31日にアメリカ軍の撤退が報じられました。9月11日、アメリカ軍がアフガニスタン侵攻を決断した原因でもあるアメリカ同時多発テロから20年が経ちました。

20年前の同日、母は生まれて間もない私の面倒を見ながら旅客機が世界貿易センタービルへ直撃する映像を見ていて、映画かと思つたと言っています。今回の撤退作戦も平和に済んだわけではありません。タリバン側は総攻撃を仕掛け、アメリカ軍も亡命を求めた人々を犠牲にするほかに、帰国となつたようです。人で一杯の機内や、詰めかけた人々でパニックの空港は三密でマスクをする余裕すらない様子が報道されています。

振起日礼拝で神保望先生から神様の御言葉に与りました。説教を聞き、この紛争で犠牲になった人々に神様とイエス様の憐れみがあったのか、紛争が終結した今、当事者の方々に聖書の人々のよう

な安らぎと希望は得られているのか、と思いました。20歳のアフガニスタン人がいたとして、恐らく私とは命や生きる希望への価値観が違うのではないのでしょうか。しかし神様、イエス様が注いでくださる愛情は両者変わりません。

世の中混沌としていると改めて考えさせられました。新型コロナウイルスにより気が滅入っている人も多のですが、日本で生きる私たちの日常と礼拝に参加できる日曜日が守られ、希望が与えられているのはとても恵まれていることです。

そんな私にできることはなんだろうと考えましたが、やはり祈ることと小さな伝道くらいです。それによって神様が用意してくださったイエス様という、生へと繋がる門をくぐる人が増え、この先アフガニスタン紛争のような間違いが起きないこと、犠牲になった先人の存在を忘れないということが、平和な社会で生きる私たちにできることではないでしょうか。人々に生きる希望が与えられ、犠牲者が天国で安らかな生活を送れますようにお祈りいたします。

伝道師の書き込み

色々な方から応援と心配をいただいた正教師試験ですが、先月15日の面接試験をもって終了しました。結果としては、合否保留となりました。合格点に届かなかった課題の救済措置としてレポートが課され、その提出によって再度審査されるといえるのです。今回は教憲・教規のテストが合格点に満たなかったため、レポート提出となりました。他の教科もあまりよ

くできた気がしなかったのですが、レポート提出で済んだのは私個人としては上出来な方だと思えます。

今回の試験はすべての課題がレポート提出によるものであったこともあってか、試験の内容自体が過去問と比べても少し難しい傾向があったと感じました。また、単純な難易度のこと以上に、教団や教会のあり方に関わるような問題、受験者の考察を求める問題が増えてきた、という印象を受けました。かつての教団の教師試験では「すべての立場を受け入れる」

として、まともな規範がなかった時代があったと聞いたことがありますが。こうした問いかけができるというのは、教師試験が何に基づいて行われるのか、日本基督教団がどのような教師を生み出しているのか、そういうものが明確化してきたことの現れかと思えます。レポート作成にひいこら言いながらも、まともな試験が受けられるのはありがたいことでした。

います。正式な合否の通知が10月に出されるので、それからまた接し手札に向けて動いていくことになるかと思えます。試験期間中、祈り支えてくださった皆さんにこの場を借りて感謝申し上げます。ついでにもうひとつ安心したこととして、先月、二度目のワクチン接種が終わりました。体が頑丈なのか、はたまた体内年齢が老人なのか、聞いていたような強い副反応は出ませんでした。張り切っていた副反応対策がやや肩透かしに…。(狩野進之佑)

牧師の書斎から



押し入れに積んでいた説教原稿を処分しました。伝道師時代から10年分、手書きの原稿です。それ以降はワープロ、パソコンで作成した原稿ですから、データで残っています。

次に集会の準備や説教準備のためのノートを処分しました。数えませんでした。数十冊はありましたが、ついでに段ボールに詰め込んでいた神学校時代のノートもすつ

かり処分しました。神学校の講義は教科書もなく、ひたすらノートをとったものです。テスト前はそのノートに頼って準備するしかありませんでした。読み返してノートが不十分で意味不明で困ったこともありました。中には聞き取りにくい教授の講義にもかかわらずノートの完成度が高く、「コードックス(写本)キシ」として、試験前にもはやされたノートもあります。ちよつとした自慢話ですが、何人かはそれで落第を免れたことでしょう。

最後まで迷ったのは日記です。高校生の頃からつけ始めました。その頃は毎日B5ノートに1頁、多いときは数頁に及ぶこともありましたが。しかし、伝道師、牧師となりました。つけるのはとびとび、分量も半頁ほどとなりました。主任者となつてからは毎日パソコンで牧会日誌と称する備忘録をつけるようになりました。業務日誌のようなものです。いつ誰と会ったか、読んだ本のメモ等、大雑把ですが時間単位でつけています。素早く検索できるのでとても便利です。

そのため、手書きの日記はほとんどつけることはなくなりました。読み返すにはあまりにも分量が多く、一気に棄てることにしました。束ねていると、日記に挟んでいたコンサートのプログラムや、切り抜いた新聞記事などが現れます。その頁だけは読みました。若い頃は、気取っていたり気負っていたりしたものです。ゴミ収集は朝早いいため、妻が出しています。リサイクルゴミとなったノートなどが余りに重く、腰を痛めたと言われました。(岸)

個人消息



掲示板



- 神学校日礼拝 10月10日(日) 午前10:15
説教「神と顔を合わせる」 菊地信行神学生
創世記4:1-7、1コリント13:12
- 召天者記念礼拝 11月7日(日)
午前10:15 午後2:00
- 幼児祝福式 11月14日(日)
- 教会創立84周年記念礼拝
11月21日(日) 午前10:15
- アドベント 11月28日(日)

編集後記



▽教会バザーでは毎年ブティックを担当しています。献品の仕分け、値付け、販売、売れ残った品の整理まで、リユース・リサイクル精神をバザーで学びました。(酒井)

「栄 光」2021年10月号
日本基督教団 経堂北教会
〒156-0051 東京都世田谷区宮坂3-21-11
電話：03-3428-5029 / FAX：03-3428-5038
牧師：岸 俊彦 伝道師：狩野進之佑
編集：栄光編集委員会
Email：kyodon@nifty.com
HP：http://kyodokita.life.coocan.jp

長老のファイル

9月5日の礼拝から、出席者への教会入り口での体温の計測が始まりました。新型コロナウイルスによる感染症は、新たな感染者数が減少しているとはいえ、新たな型、広がり方に依然として緊張が続きます。今までも、より具体的に対応策を検討しています。本人・家族の体調には十分注意し、マスク、検温、消毒など一人ひとりが注意し、無理せず礼拝に与り

たいと思います。オンラインで礼拝に与れるのはありがたいです。キンモクセイが香り始めると「もうすぐバザー！」と連想されるのですが、今年もバザーは中止です。7月同様、教会内で持参者による献品、製作品のミニバザーを10月31日・11月7日の2回行います。収益は対外援助のためにさせていただきます。バザー献金も受け付けています。ご協力よろしくお願いたします。

10月第2週は神学校日の礼拝が守られます。今年も菊地信行神学生がご奉仕くださいます。祝祷は説教者が行うという経堂北教会の原則に基づいて、祝祷は菊地神学生がされます。コロナ禍の中、不自由な学び、礼拝出席ですが、来年3月には東京神学大学を卒業、補教師となつて福音宣教の前線へと出て行かれます。祝福、お守り、お導きを祈ります。

11月の計画の中では、7日に召天者記念礼拝が行われます。昨年同様、午前・午後の2回に分けて守ります。

14日には合同礼拝・幼児祝福式を予定していますが、新型コロナウイルスの感染状況を確認して10月に再度検討し決定します。

21日の創立84周年記念礼拝は通常通りの礼拝を守ります。

ワクチン接種は進んでいます。が、一向に安心して様々な活動をすることはできません。持病のある人、小さい人たち、様々な事情を抱えながら、一人で、また、家族と共に忍耐し、工夫しながらの生活が続きます。祈りつつ、主に信頼して、全てお委ねして歩みたいと切に願います。(照内真知子)